

# 海域での効果的なモニタリングの概要

## 検討の目的

伊勢湾海域では、各機関が環境面・水産面などそれぞれの目的に応じて様々なモニタリングを実施している。(右図)

一方、伊勢湾再生の観点からは、本行動計画に基づいて実施された施策や取組みの効果を確認するためのモニタリングはもとより、効率的・効果的な施策検討のためのモニタリングも併せて実施していく必要がある。

このため、海域検討会での研究者の助言を頂きながら、既存モニタリングについて『観測地点』、『観測項目』、『観測頻度』を整理・検討するとともに、必要に応じて新たな観測を追加し、海域における効果的なモニタリング計画の作成を行った。

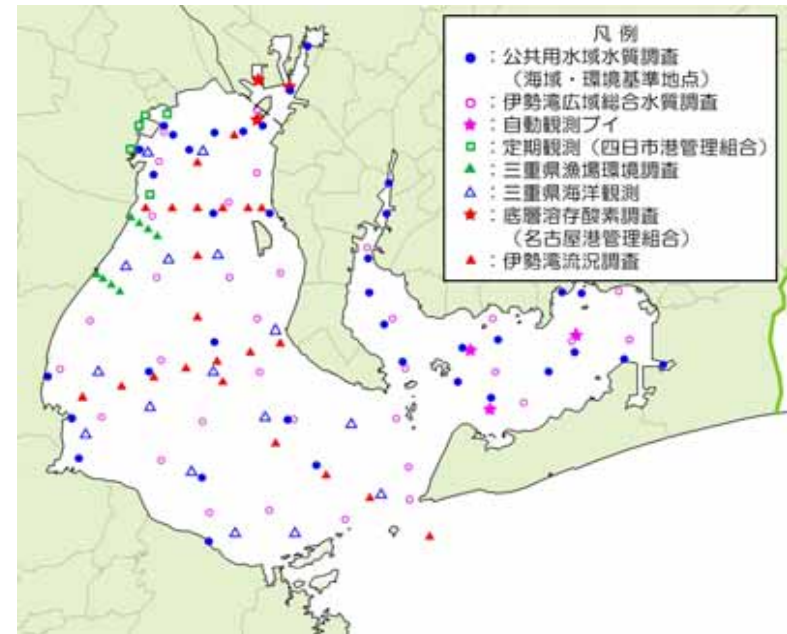


図 海域における既存のモニタリング地点

## 伊勢湾再生に必要なモニタリングの視点

伊勢湾・三河湾は、近年、底層の貧酸素化などによって、アサリなどの生物資源が大量に斃死する問題が起こっており、“貧酸素水塊”の改善・抑制につながるモニタリングの実施が求められている。そのため、“修復”と“監視”の2つの視点を踏まえたモニタリングを検討した。

### “修復”に関するモニタリング

改善施策の効果確認(根本的方法・長期的な視点)

シミュレーションモデルにおいて初期条件や結果の検証に活用できるデータを取得するためのモニタリング

各関係機関が実施する施策がどの程度環境改善に寄与するのかを長期的に予測するシミュレーションモデルへの活用を想定

### “監視”に関するモニタリング

…連続観測

監視と短期予測(対処的方法・短期的な視点)

海域における貧酸素水の発生状況とその要因を連続的に捉えることができるモニタリング

海域の変動をリアルタイムに把握し、赤潮や貧酸素水の発生といった海生生物の生息を脅かす事象の事前予測への活用を想定。

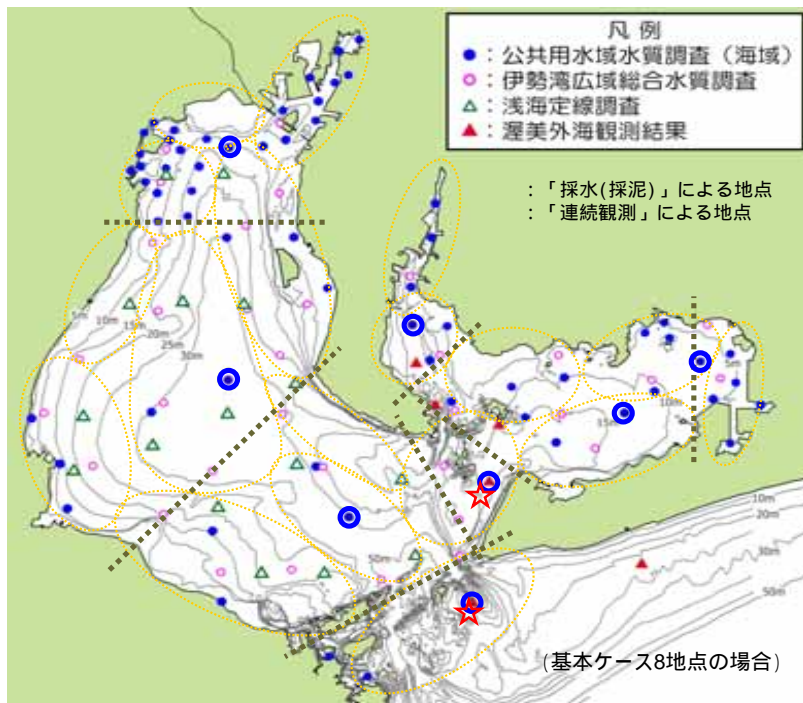
# 検討結果

実現可能な“現実的なモニタリング”として伊勢湾各箇所の環境条件等を基に伊勢湾を区分し、モニタリング地点、調査項目、調査頻度を整理

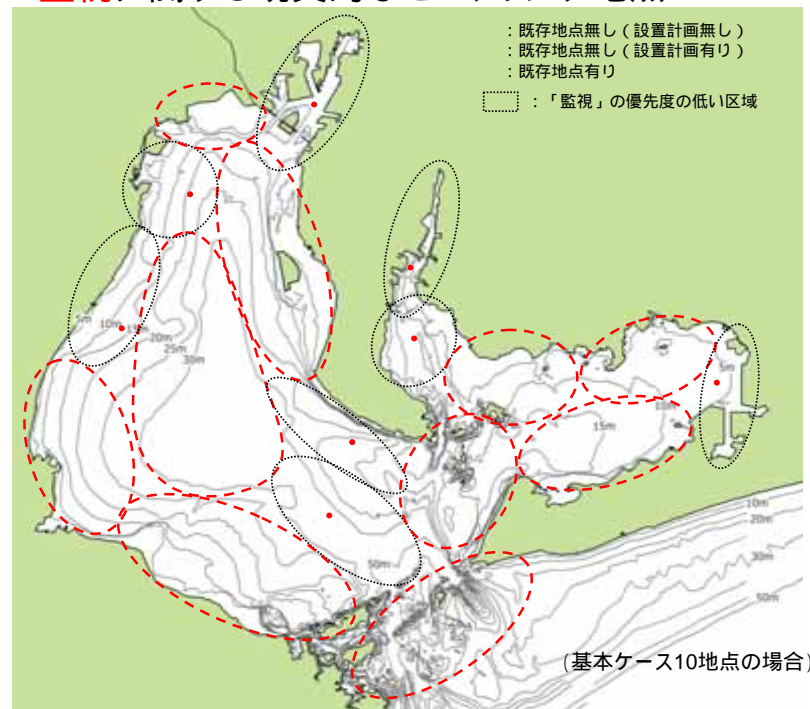
修復に関するモニタリングでは、既存モニタリングを最大限活用しつつ、一部観測地点・項目の追加を提案。

監視に関するモニタリングでは、既存モニタリングでは不十分なため、連続観測地点の設置を提案。

## 修復に関する現実的なモニタリング地点



## 監視に関する現実的なモニタリング地点



“修復”に関するモニタリングについては、シミュレーションモデルの精度向上に特に寄与する地点・項目を優先。

“監視”に関するモニタリングについては、“貧酸素水塊が出現しやすい海域”、“外海水の進入”、“生物資源への影響”の観点で特に寄与する地点を優先。

## 今後のモニタリングのポイント

各機関が実施している既存モニタリングの有効活用と観測時期の統一

“修復”に関するモニタリング: 海洋環境船“白龍”による採水調査等の環境モニタリング(平成21年度から開始)

“監視”に関するモニタリング: 『既存地点無し(設置計画有り)』となっている箇所に、先行的に連続観測装置を設置